

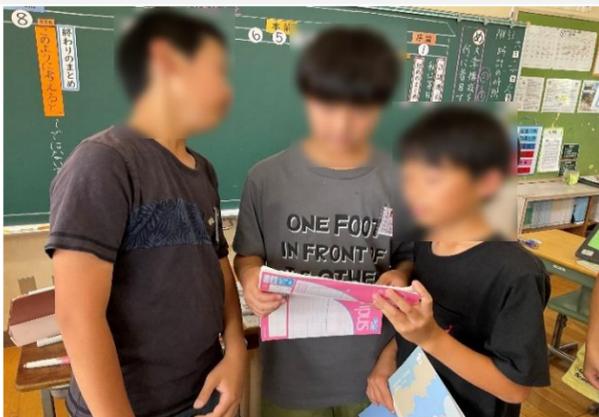
時計の時間と心の時間



6月20日に行われた国語科の提案授業では、双括型の説明文「時計の時間と心の時間」を読み、8つの段落が「序論・本論・結論」のどれに分けられるかを考え、筆者の主張や意図を捉えながら、自分の考えを発表し合うという内容でした。

文章構成を捉える

文章構成を捉えるために、「序論・本論・結論」には、何が書かれているか説明文の仕組みを押さえる担任



自身の考えを伝え合う場面



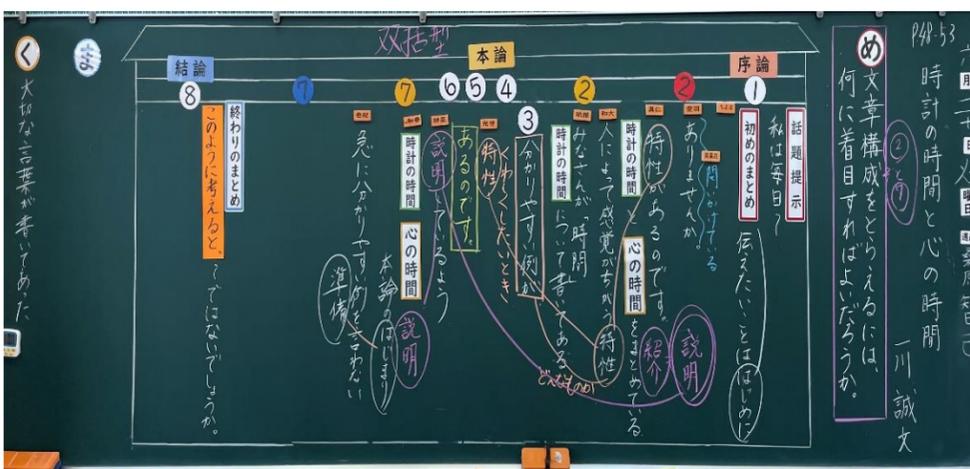
ロイノートを活用し、クラス全員の考えを共有



2の段落が「序論」か「本論」か討議

2の段落は序論？本論？ 白熱した議論に

教師のコーディネート力と学級の支持的風土



発表した一人一人の子どもの意見を大切にするため、板書ではネームプレートを活用。2の段落の意見だけで、板書が半分以上も埋まった。

机の向きを教師との対面ではなく、凹の字の形態にし、子ども達が向き合うことで議論しやすい環境で授業はスタートします。

展開では、2の段落が「序論」なのか「本論」なのかの2つに意見が分かれました。

教師のコーディネートで、次々と意見を伝え合う子ども達。教師の指示がなくても、自然と手が挙がり、子ども達主体で授業が進んでいきました。

「そうか！」「なるほど！」などの反応もあり、相手の意見を決して否定することなく、それでも自分の意見はしっかり発表できるというクラスの雰囲気はとても素晴らしいです。安心して自分の意見を伝えられる支持的風土は、普段の学級経営の賜だと感じた授業でした。



子ども主体で授業が進んでいる様子（学びをたのしむ姿）

